

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202189		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム 彩葉(いろは)		
所在地	〒858-0907 長崎県佐世保市棚方町424-272 (電話)0956-47-7300		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(平成20年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79.9 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人道仁会 品川医院・愛生会医院・おおつぼ歯科医院
---------	-----------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保の中心部から少し離れており、閑静な住宅地に溶け込むように存在する当ホームは、利用者や職員に自然な笑顔が見られ穏やかな生活を送られていることが窺える。町内会長がホームへの理解を示されており、運営推進会議への参加が、ホームと地域住民の双方向に「地域とホームの行事の取り組み」や「危険箇所の広報での呼びかけ」など協力されている。地域密着型グループホームとしての前向きな姿勢が今後のホームを多方面から支える地盤造りに繋がることが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートは目標や期限、評価まで記載しており、積極的な改善への取り組みが窺える。内部研修の実施に関しては、職員の方から具体的な内容を示し積極的に学ぶ姿勢が自信につながっている。市町村との連携はホーム内で抱え込まない取り組みを実践され、問題解決の糸口を見出されている。火災以外の自然災害や、入居前の短期利用にも前向きな管理者の取り組みに職員も啓発され、向上心に溢れている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価票を配布し記入される過程で、介護の振り返りや見直しに結びついている。外部評価での指摘は、改善票を作成し取り組み、改善に向けて努力されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2ヶ月に、1回開催されている。資料作成の際には個人情報に配慮しながら、ホームが抱えている悩みを公表し、地域住民に徐行運転のお願いや地域高齢者や家族に向けてホームができる事を伝える場として活用されている。町内会長の柔軟な姿勢や態度に励まされながら相互理解に向けて活動されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族面会時になるべく家族が疑問に思われていることや要望など伝えやすい環境を作る工夫(家族が帰られる際にゆとりを持って接する時間を持つ)をされている。家族が匿名で要望を出しやすい取り組みとしてホームページ上に書き込む体制作りには施設長が取り組まれ、実現の段階まで到達されており、施設長や管理者が積極的に家族の意見を把握する取り組みをされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入されており、行事や清掃作業など、参加できる利用者と職員が積極的に取り組みをされている。回覧板を利用されると地域行事をホーム行事に組み込みやすくなる利点もあり、ホームに理解を示されている町内会長との連携も視野に入れている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型として理念の見直しをされている。【毎日、楽しく、元気良く、地域の方と共に、喜びを】との理念を、玄関や廊下など職員が目につきやすい場所に掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全体が意識付けされており、日々の介護に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入されており、行事や清掃作業など、参加できる利用者と職員が積極的に取り組みをされている。回覧板を利用されると地域行事をホーム行事に組み込みやすくなる利点もあり、ホームに理解を示されている町内会長との連携も視野に入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配布し記入される過程で、介護の振り返りや見直しに結びついている。外部評価での指摘は、改善票を作成し、取り組み、改善に向けて努力されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催されている。資料作成の際には個人情報に配慮されている。外部評価の意見を参考にして運営に取り組まれている。		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ユニット管理者が具体的事例を挙げて市の担当者と相談をされており、解決の糸口を見出されサービスの向上につながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回、利用者家族に向けて日頃の暮らしぶりや健康状況などを送付されている。家族面会時に領収書や金銭出納帳など見てもらい捺印をいただいている。疑問点を残さないような取り組みをされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会発足はまだ準備中で、家族面会時になるべく家族が疑問に思われている事や要望など言い易い環境の工夫(家族が帰られる時にゆとりを持って接する時間を持つ等)をされている。匿名で要望が出しやすいように施設長がホームページを作成中で、前向きな姿勢が見られる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動も最低限にされている(ここ一年間はない)。離職者が復職することもあり、管理者と施設長が、職員同士で相談しやすい雰囲気を保つことができるよう努力されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加はなるべく均等に、働きながら学ぶ体制ができており、資格取得にも管理者側が職員へ促すなど働きかけをされており、より高いサービスの質の向上に努力されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へは、管理者と職員が参加されており、職員間の情報交換の機会を設けられている。他のグループホーム職員との交流が、サービスの質の向上につながることを、管理者は認識されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望があれば「ショートステイ」が利用でき、家族と本人が馴染みながら「納得や安心できる場」の雰囲気づくりに努められている。家族の相談や協力を得ながら利用者本意のサービス利用に取り組む姿勢が見受けられる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>敷地内の空き地を菜園にされており、利用者が生育状況を見ては、手入れの時期を職員に教えられている。「共に支えあう暮らしの場」として職員の意識が高められており、楽しく暮らすホームを目指されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者の個性を理解し、一人ひとりの思いや意向を把握するため、言葉以外の表情や行動からも汲み取る努力をされている。情報の共有はケアプランへの反映も考慮に入れた取り組みをされている。又、(職員と1対1の関係になれる)入浴時に個人的な話をされる方も多く、きっかけを逃さない配慮がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>最低6ヶ月に1回、ケアプランの見直しをされている。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、僅かな変化を見落とさないように、常に情報の共有を通して家族にも分かる介護計画作成に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回カンファレンス時に介護計画の見直しに繋がる意見交換が活発に行われており、必要に応じて介護計画の変更を行うなど柔軟な対応がされている。</p>		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域行事とホーム行事の相互の関わりを通して、ホーム開放から多機能性を活かさないか検討されている。	○	近所に幼稚園や学校関連施設がないため、子供たちと触れ合う機会が少ない。ホームから離れていても同じ地域住民の通う学校関連施設があるので、地道に交流の機会を作られる事が、地域に密着したホームとして浸透されることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携と医療連携体制病院との橋渡しや、かかりつけ病院への同行、往診時の情報共有など「報・連・相」を医療・家族・職員間が共有するように努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に関する指針はあるが、身寄りがない人の場合など、あらゆる想定を範疇において支援の仕方を更に詰めていきたいと考えられている。	○	現在、作成している「看取りの方針」を更に充実し、文書として確立する取り組みを明言されており、今後の取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応時の配慮を、職員は慎重に行うように気をつけられており、職員間で気付いた「不適切な言葉かけ」はお互いに注意できている。記録時は利用者から見えない場所で行ったり、保管場所を決めて慎重に取り扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを優先することなく、利用者それぞれの気持ちや落ち着く環境で過ごしてもらっている。常に見守り、観察の継続のため職員間の連携を保ちながらの支援をされている。		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のための一連の作業を、利用者それぞれが自分でできることを無理がない範囲で分担され、食事時の話題として取り入れられるなど、利用者と共に食事しながら和やかな雰囲気が感じとれる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間の制限はない。夕方や夜間の入浴を希望される方がいるが、見守りや言葉かけをしながら希望に沿うように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者間で出来上がった役割分担や、得意分野で力を発揮できるような支援を、さりげなくされている。「得意としていない」と本人が言われていたことができるようになられた時の充実感を大切にされ、感謝や励ましの言葉かけが隠された能力を引き出すような支援につながっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の老人会のゲートボールの練習がホームの窓から見られるため一人で見に行かれる方の支援や畑の草むしり、買い物の同行など戸外に出る機会を作られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームは市道の急斜面のカーブ沿いに建っており、車の通行量が通勤時間帯に多いため、危険防止のために家族からも施錠の要望が出ている。玄関近くに事務所があり、訪問者の確認や、利用者が出て行こうとされる時は、同行するなど安全と本人の意向に沿う取り組みをされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の調査時に自然災害への危機管理体制を整えられるように指摘され検討されている段階にある。家族への説明や地域住民への説明をどうするかなど文章化に取り組み中で、前向きな姿勢が窺える。		

グループホーム 彩葉

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のカロリー計算や、個人別の食事と水分摂取状態を把握しながら、体調管理をされている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の「暮らしの延長線」として、思い起こされるような、五感を刺激することに配慮されている。季節が分かるような展示や食事の支度を感ずる匂いなど工夫をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ち込まれたり、本人の意向に沿ってあえてベッドのみ置いてあるなど、工夫を重ねて、居心地の良さを感じられる居室づくりをされている。		